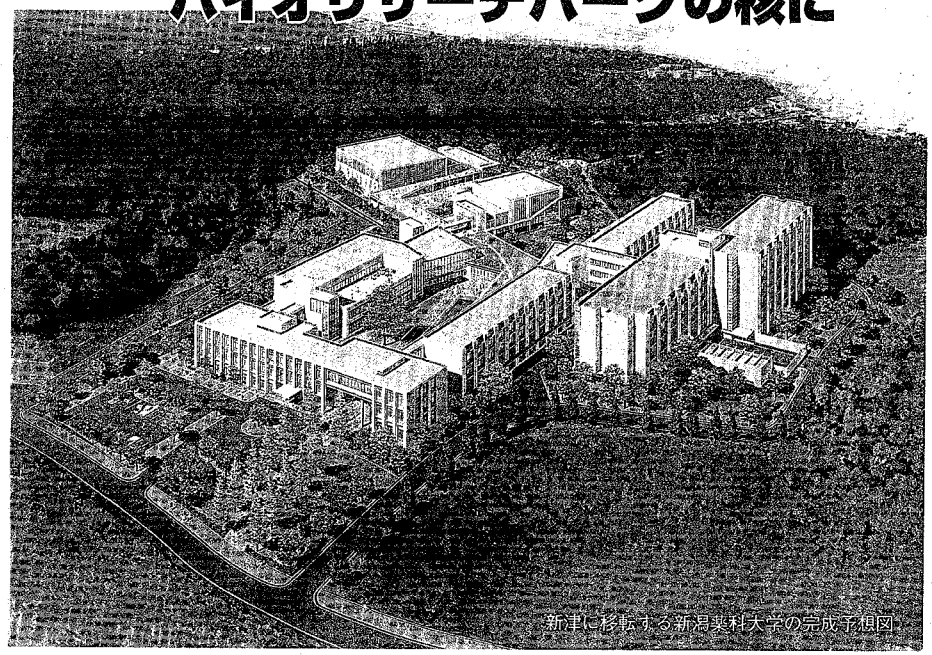
新潟薬科大学が新津に移転

バイオリサーチパークの核に



新津に移転する新潟薬科大学の完成予想図

新潟薬科大学が、朝日・東島の丘陵地に移転することになりました。同大学は、応用生命科学部を平成十四年四月に新津に新設します。その後、大学院を含む既存の薬学部を段階的に新津へ移転します。

市では、同大学を核とする地域と産・官・学連携による研究拠点「バイオリサーチパーク」構想を推進していきます。

バイオリサーチパーク構想とは

この構想は、丘陵地の恵まれた自然環境を生かし、新潟薬科大学を核としながら、高度科学技術を結集した研究拠点をつくろうとするものです。

同大学の周辺に公的、私的な試験・研究機関を誘致し、地域と産・官・学の連携の下で、生命・健康科学関連分野の知的集積を図っていきます。これにより、二十一世紀の医療や食品、環境関連分野の研究、技術開発の基礎が築かれ、農林水産業や食品産業という新潟県の地域産業の発展にも大きく寄与していきます。

バイオリサーチパーク構想のイメージは、次ページ右下の図のとおりです。

応用生命科学部を新設 生命科学系総合大学に

新潟薬科大学は、従来の薬学部（薬学科、衛生薬学科）に加え、生命科学の基礎と応用を総合的に教育、研究する「応用生命科学部」を新設して、二十一世紀を見据えた二学部構成の生命・健康科学系の総合教育・研究機関となります。

応用生命科学部には、次の二つの学科が設けられます。

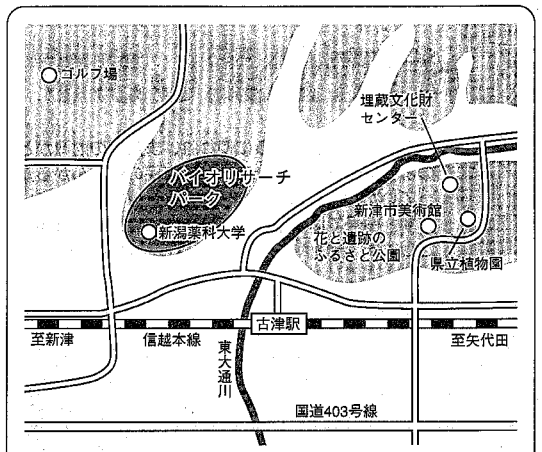
■生命科学科（バイオサイエンス学科）

医薬品開発や生物、食品資源開発、環境保全などのバイオテクノロジー関連分野において、生物工学の先端技術と生命科学の基礎的素養とその応用展開を図ることのできる人材の育成および、生命科学の基礎的理論と実践を重点的に研究します。

■食品科学科（フードサイエンス学科）

予防医学と密接な食品の生理活性や毒性、安全性評価といった薬学と重なる分野を新たに加えて、資源、生産そして安全評価、疫学までの食品開発に関わる研究、教育を総合的かつ学際的に行い、生命科学を基礎とした食品開発に携わる人材を育成します。

※学際…いくつかの異なる学問分野がかかわること



新潟薬科大学、バイオリサーチパーク位置図

新潟薬科大学の規模

	学部	学科	入学定員 学部	入学定員 学科	収容定員
新設	応用生命科学部	生命科学科 食品科学科	60人 60人	120人	480人
既設	薬学部	薬学科 衛生薬学科	70人 50人	120人	480人
	大学院	薬学研究科 （修士課程） （博士課程）	10人 3人	（2年） （3年）	29人

新潟薬科大学応用生命科部新設および薬学部移転のスケジュール（予定）

平成14年4月…新津市に応用生命科学部を開設

平成16年4月から…大学院を含む既存の薬学部を段階的に新津へ移転

応用生命科学部の新設および薬学部移転に関わる概算経費

区分	項目	全額	内容
用地費、造成費、基盤施設整備費	用地費	7.7億円	用地買収費、調査費、造成費
	道路整備費	2.4億円	道路改良、道路舗装、歩道新設
	下水道整備費	2.1億円	汚水管渠費 雨水洪水調整池
	水道整備費	0.8億円	水道管布設 配水タンク
	計	13億円	
大学施設建設費等	応用生命科学部新設	41億円	校舎等建設費、教育研究用機器備品費、図書購入費、設計費
	薬学部移転	44億円	校舎等建設費、教育研究用機器備品費、設計費、移転費
	計	85億円	

経費の負担

●用地費、造成費および基盤施設整備費…新津市の負担

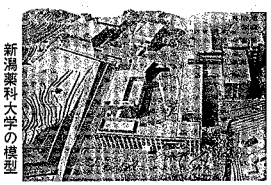
●応用生命科学部新設の経費

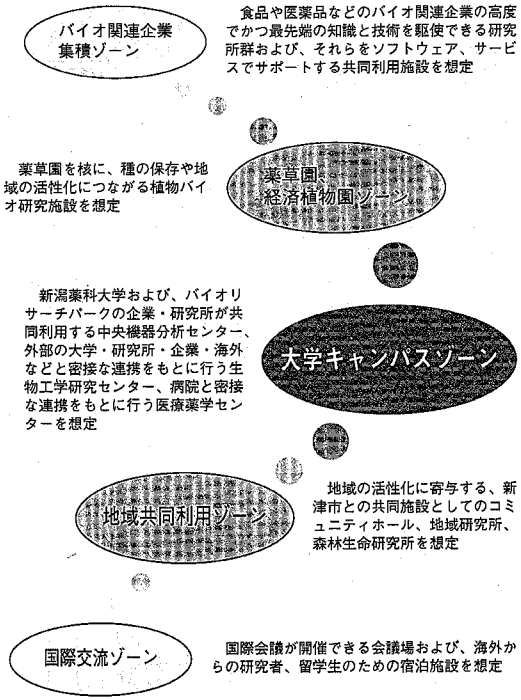
新潟薬科大学の自己資金…18億円

県および自治体補助金、企業寄付金…23億円

※新津市では10億円を上限とする債務負担行為が議決されました。

●薬学部移転の経費…新潟薬科大学の自己資金



新潟薬科大学の模型

バイオリサーチパーク構想のイメージ